

失敗しないう畳替えのび

— はじめての畳替え —

舞 畳自体は誰でも知っているものですが、畳のこことって案外わからないことが多いです。例えば僕が自宅の畳を替えようと思ったら、まずどこに相談すればいいんですかね？

穴 昔から「餅は餅屋」と言つように、やっぱり畳に関することは、きちんとお店をかまえている畳屋に直接聞いたり頼んだりするのが一番だと思います。独特の縫着技術が必要とするものですので、**畳屋にしか、畳替えの作業はできませんので、どこに頼んでも結局は私共のところに話が回ってきますからね。**

舞 なるほど。ところで、「畳の替え頃」ってあるのでしょうか？

穴 今は昔と違って人寄せのある機会などが減っていますので、極端にキズついたり汚れたりしない限り、なかなか「今だ」というきつかけは少ないのかもしれないし、使用状況によっても異なりますが、**5年程度での「表替え」、10年程度での「新畳替え」をおすすめしています。**畳や襖、障子などを定期的に張り替えて繕ってあげることが、面倒でもある反面、日本家屋の持つ良さでもあるわけです。

舞 今で言う「ロハス」に近い感覚ですね。それに畳を替えるとも部屋が明るく見えたり、イグサ独特の香りが部屋に広がったりと、気分も一新できますよね。あの、ところで畳替えて、いくらくらいするものなんですか？ すいません、全くの素人なので…。

穴 いえいえ(笑)ゴザと縁のみを取り替える「表替え」ですと、どこのお店でもだいたい一畳あたり6000円〜1万5000円程度が相場だと思います。業務用はともかく、一般のお客様を相手に商売をしているのなら、それより極端に安い価格は怪しいと思つたほうがいいかも知れませんし、逆に、お茶室などこだわりのお部屋でなければ、**そう値段の高いものを選ぶ必要もない**と思います。

舞 ピンからキリまでなんです、畳も。値段によってどういう違いがあるのでしょうか？

穴 ああ、それは良い質問ですね！一枚のゴザに使われるイグサの本数や、産地、織り糸や畳縁の種類などによって素材の値段が変わってくるのですが、これに畳職人の「手間賃」と「技術料」がプラスされて、張り替えの最終的な値段が決まります。

舞 ある程度、長い期間使うものなので、せっかくなら良い素材にしたと思うのですが、知識やウンチクを覚えるのは、なんだかちょっと難しそうですね…。

穴 その点は心配ありません。私共は、あまり専門的な言葉を使わずに、「丈夫で、色変わりが良い」という点に絞って、お客様に満足していただける畳をおすすめしています。**畳が青いのは、はじめのうちだけ。**日に焼けてからの方が使う期間がずっと長いわけですから、皮がむけにくく、均一に美しいアメ色に変化していくようなものが良いと思います。

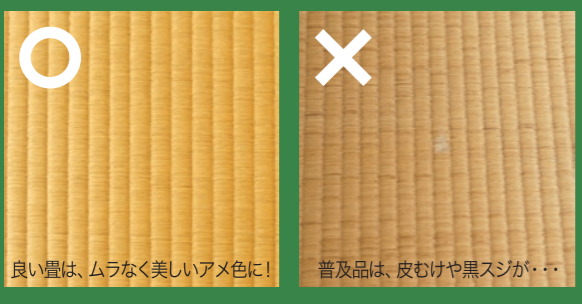
舞 今日、持ってきていただいた、このゴザがそうなんです！

穴 そうなんです。本当に丈夫ですし、とにかく綺麗に色が変わるんですよ。今までは畳屋の間でさえも、熊本がいいとか備後(広島)がいいとか中国はダメだとか、基準が曖昧だったんですけど、偏見を捨てて「**良い畳とは何か**」という本質だけを考え抜いて、ここに行きついたんです。私が加盟している畳生活提案協同組合で共同購買しているもので、数量こそ限られているものの、**価格と価値のバランスは絶妙**です。畳職人として、これをつける時にはやっぱり喜びを感じますねえ。

舞 うーん、これなら色の変化も楽しめそうですね。愛着が湧いて小まめにお手入れもしそうですね。いやあ納得がいきました。いろいろとご指南いただいてありがとうございます。

Q 畳を替えるときは、何を基準に選べばいいですか？

A 畳が青いのは、はじめのうちだけ。ズバリ、「丈夫さ」と「色変わり」で選ぶのが、正解です！



八王子で33年 安心のISO認証企業
(株)あなみず
代表 穴水美樹

舞の海 秀平さん

工場長 菊池信一